

3世代が繋ぐ、背広の浪漫  
ツキムラ物語PART  
7

奈良の町で、親から子へと繋いでいった「洋服店」。そのタスキを受け取った現社長 岸伸彦氏の記憶と共にツキムラの軌跡、そしてこれからご紹介していくコーナーです。



岸社長

PRODUCED BY TUKIMURA

## ツキムラの歩み

## 時代背景

2002年	初のラジオ番組「ツキムラ カフェ」がならどっとFMで放送開始 ラジオ大阪で友近さんと「笑う門には服來たる」の放送開始 JR奈良駅前本店 リニューアルオープン	UFJ銀行誕生 2002FIFAワールドカップ開幕 小柴昌俊氏にノーベル物理学賞、 田中耕一氏にノーベル化学賞
2003年	阪神タイガース「月間MVP授与式」にてスーツ贈呈 学園前にツキムラ生地センターをオープン 東生駒にツキムラ工房オープン (後、芸能人ご用達の工房店となる)	スペースシャトル「コロンビア号」離陸 「千と千尋の神隠し」がアカデミー賞 長編アニメ映画賞を受賞 世界水泳選手権100m平泳ぎで 北島康介が新記録



上の写真は、大学の大ホールで「リクルート着こなし講座」を講演している模様。下の写真は、インターシップを通じて入社した社員たちと先輩社員たちが岸氏の誕生日会を催してくれたときのもの。



前回までのあらすじ  
大正14(1925)年、奈良町の一角で創業された「ツキムラ洋服店」。その3代目として生まれた岸氏。20代で店を担い、貿易や縫製を勉強しながら、株式会社ラガソットを設立。徐々に販路を拡大していき、ラジオ番組出演という新たなメディアでの広告を増やしていた。

人間として、背広との「お付き合い」の仕方、自分の体験と想いから語った。「面接本番に、新しいスーツに袖を通すのではなく、ぜひ、その前に着てください。スーツに着負かせずに、着慣れ、をして堂々と面接に挑んでください。そのためにも、親に手入れしてもらおうのではなく、ブラッシングもプレスも自身でなさってください。自分の物に対する愛情表現が大切です。スーツも生き物ですから、いざというときには、よりよく見えるようにブラスファの力を出して、あなたに恩返ししてくれませんか。」

想いばかり伝えて、的外れなことを言っていたのかも、しれないと思っていたが、講演後、岸氏は学生たちの質問せめにあつた。問われる内容は人生相談がほとんど。「僕世代は、父親の背中に憧れをもっていたけれど、現在では父親の背広はユニフォームだというく

らい価値が下がった。「お父さんみたいになつたらあかんぞ」と家庭で言われ、威厳が損なわれてきている。そんな父親を見ている彼らは大人の見本を探しているのかもしれない。まずは見本となるお父さんたちを元気にしないとだめだと思つた」。面接官に好印象を与えるスーツを選ぶべきなのに、学生たちに委ねていると、今のトレンドを意識したスーツになる。だからこそ大人の目で、場に合ったものをアドバイスする必要がある。スーツを着るときには必ず目的があつて、当然そのシチュエーションに合う着こなしがある。背広は機能性重視の服ではなく、無駄なもの集合体かもしれないが、逆にそれが美德でもある。お花やお茶の作法のように、背広には背広の作法がある。それを子どもと伝えていくために、まずは父親たちを元気づけたい。「カッコイイお父さん」を増やすために、岸氏は「世代に沿つてのカッコよさ」を追求し始めたのだ。

さらに、講演活動は思わぬ副産物をもたらした。大学と関連ができたことから、会社にインターシップを受け入れることになったのだ。たった2週間だったが、背広に対するマインドと岸氏の生きざまを彼らに伝えた。「そうしたら、インターシップが終わつても、離れなくなつてね。ちよこちよこ遊びに来ていて、結局その時来ていた4人全員がうちで働くことになったんです。不器用なりに一生懸命頑張るところがいいところなんです(笑)」。今では、4人それぞれが店長や企画担当などの重責を任せられ、今日のツキムラを支えている。大学講演の活動を通じて、図らずもまわりまわって良い人材が岸氏のもとに集まつてきた。人材という大きな力を得たツキムラに、次なる挑戦の時が訪れようとしていた。